

学校経営方針

『児童の居場所となる学級・学校の創造』 ～主体的・協働的・自律的な児童の育成～

1 はじめに

これからの社会は、情報化やグローバル化が加速的に進展し、様々な社会環境の変化や価値観の多様化も一段と進んでいくと言われている。飛躍的な技術革新により、Society5.0の社会では、様々な情報を適切に収集し、分析して、社会の発展に活用することが求められており、一方では、少子高齢化、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの生命・人権・貧困など多岐にわたる問題が山積している。さらに環境問題や新型コロナウイルスの感染拡大のような地球規模の新たな問題についても対応していかなければならない。

このような予測困難な社会を子どもたちが心豊かに健やかに生き抜いていくためには、初めて出会う様々な問題にも主体的に判断し挑戦し、他者と協働して知恵を出し合い、解決したり新たな価値を創造したりする力を育んでいかなければならない。そのような資質・能力を子どもたちに身に付けさせるためには、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を保護者や地域と共有し、連携・協働しながら子どもたちを育む「社会に開かれた教育課程」の実現を図ることが重要である。また、学習指導要領を着実に実施し、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進を図ることが肝要である。

それでは、「よりよい学校教育」とは何か。「確かな学力・豊かな心・健康な体などの生きる力を育む学校」「主体的・対話的で深い学びの充実を図り、一人一人の資質・能力を高める学校」「互いを尊重し合い、安心して生活できる仲のよい学校」など、様々な視点があるが、本校ではそれらをまとめ「**児童の居場所となる学級・学校**」と表現する。個性や多様性が尊重され、一人一人が価値ある存在として認められ、心理的安全性が確保され、自分のよさを伸ばし発揮できる学校である。その中で「**主体的・協働的・自律的な児童の育成**」を学校課題として位置付け、学校・家庭・地域との連携を図りながら教育活動を展開していきたいと考える。

本校は沼ノ端鉄北西地区の人口増加により、平成25年4月に拓勇小学校から分離開校した市内24番目の学校である。令和6年の本年は開校12年目を迎える。平成28年度から令和2年度まで5年間、北海道教育委員会の「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校として、学校の組織力向上と若手教員の人材育成に力を入れて取り組んできた。学習・生活規律の徹底に向けた様々な学校スタンダードの確立や、国語科・算数科等における単元計画及び毎時間の板書・ノート計画作成に向けた担任間連携の充実は、現在も本校の学校力向上の礎となっており、若手・中堅教員の授業力向上の要となっている。本事業の指定は終了しているが、引き続き人材育成や学校の組織力向上を図りながら、「学力向上」「体力向上」等に組織をあげて取り組んでいく。

また、令和2年度以降、学校運営に甚大な影響をもたらした新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日に5類感染症となり、これまで制限されてきた教育活動については、その必要性を十分検討し、教員の働き方改革の推進と併せながら改善を図り、教育の質の向上を目指していく。

今求められる学校の在り方を強く意識し、変化の激しいこれからの時代を、自ら希望をもって、たくましく切り拓いていく人間を育成する学校を目指すとともに、まさに時代にあった本校の学校教育目標「希望の道を、たくましく進む子の育成」のために「知」「徳」「体」のバランスのとれた学校教育活動を推進し、教育目標の達成を学校組織一丸となって目指していく。そのために以下の4点を特に意識した取組を進める。

- ① 教育目標や経営の指標・方針・重点の達成に向け「どのような取組を・いつまでに・どのように行えばよいのか」を明確にし、全職員で共通理解を図り実践する。
- ② 組織における自己の役割を自覚し責任を果たす。（校務分掌・学年・学級）
- ③ 仕事の効率・仕方を常に見直し優先順位、時間効率、見通し意識をもち「働き方」を変化させる。
- ④ 徹底した連絡・報告・相談をすることを通し、課題の早期発見・丁寧な初期対応に全力を図る。

2 学校経営の教育理念

北海道教育のめざす姿

【基本理念】

自立

自然豊かな北の大地で、
自立の精神にあふれ、
夢や希望の実現に挑戦し、
これからの社会を担う人を育む

共生

心豊かに、ともに支え合い、
ふるさとに誇りを持つ人を
育む

【教育行政に臨む基本姿勢】

- 子どもたち一人一人の
学びを支える教育の充実
- 地域創生を支える教育行政の推進



【重点施策】

- 社会で生きる実践的な力の育成
- 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 連携・協働に基づく学校づくり
- 学びを活かす地域社会の実現

胆振管内教育の推進の重点

一人一人の子どもを主語にする学校づくり～学校内外の協働の深化を図る学校経営～

【重点達成の鍵】組織的な取組による検証改善サイクルの確立、精選・徹底・継続、役割連携の強化
心理的安全性の確保、ゴールイメージの共有、エビデンスの活用、短期サイクルの創出

重点1 資質・能力の向上

- 自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用
- 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の情勢
- 自己存在感や自己有用感を高める取組の充実

重点3 生活・学習習慣の確立

- 家庭と連携した生活・学習習慣の確立に向けた取組の推進
- 望ましい電子メディアの利活用に向けた啓発活動の推進

重点5 教員の人材育成

- 学校の総合力を高めるための中・長期的かつ計画的な人材の育成
- 北海道における教員育成指標を活用した取組の推進
- 信頼される学校づくりに向けた不祥事根絶の取組の推進

重点2 特別支援教育の充実

- 障害のある子の学びの場の保障
- 切れ目のない一貫した指導や支援体制の確立
- すべての教職員の特別支援教育に関する専門性の向上

重点4 地域との連携・協働

- 胆振五大遺産などの地域素材を活用した「地学協働」の推進及び情報発信
- まちづくりにかかわる人材を育てるふるさと教育の推進

重点6 働き方改革の推進

- 教育の質の向上を実感できる学校における働き方改革の推進
- 北海道アクション・プランに基づく学校、市町教育委員会と連携した取組の推進

苫小牧市教育大綱

基本理念

未来の社会をつくるひとづくり

教育推進の指標

未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、連帯と共生の豊かな心と活力にあふれる人を育てる（自立・連帯・共生）

13の基本施策

社会で生きる学びの推進【1 確かな学力の育成 2 これからの時代に求められる資質・能力の育成 3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成 4 体力向上・健康教育の充実 5 特別支援教育の充実】

学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立【6 幼児教育の充実と学校段階間の連携・接続の推進 7 不登校児童生徒への支援の取組の充実 8 学校と地域の連携・協働の推進 9 学びのセーフティネットの構築 10 教育環境・学校施設・設備の充実】

全ての人々が学び続け活躍できる社会の実現【11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり 12 いつでも誰とでも学べる環境づくり 13 芸術・文化・スポーツがいつも身近にあるまちづくり】

方針1：社会で生きる学びの推進

- 1 確かな学力の育成
 - ・共通取組場面「見通す、決定する、協働する、振り返る」を位置付けた授業改善
 - ・学びに向かう力や安心して学ぶことができる学級風土の醸成に向けた道德教育の一層の充実
- 2 これからの時代に求められる資質・能力の育成
 - ・ICT 活用に向けた教職員のスキルアップの継続と、子どもたちが学習ツールとして活用場面と機能選択を適切に判断・実行しながら協働的に探求し続ける学習の実現
 - ・ALT の指導力向上や外国語教育推進アドバイザー配置による英語教育と国際理解教育の推進
- 3 多様な価値観を尊重する豊かな心の育成
 - ・個々のよさや可能性を伸ばす生徒指導を通じた自発的・主体的な成長を促す教育の推進
 - ・いじめを「しない、させない、許さない」心情と自他の命と安全を最優先に考えて行動する力など、豊かな心と感性を育む教育の充実
- 4 体力向上・健康教育の充実
 - ・「できた、上達した」喜びを実感し、新たな挑戦意欲を高める体育授業の充実
 - ・望ましい生活習慣の確立に向けた家庭と連携した取組の推進
- 5 特別支援教育の充実
 - ・交流及び共同学習の更なる充実に務めるなど、インクルーシブ教育の推進
 - ・障がいに応じた多様な学びの提供やICT を活用した効果的な学習活動など、教育的ニーズに応じた支援の推進

方針2：学校・家庭・地域の思いをつくむ体制の確立

- 6 学校段階間の連携・接続の推進
 - ・各中学校区エリアの重点的な課題を解決する系統的な教育活動の一層の充実
 - ・学びの連続性を踏まえた幼稚園・高等学校等との学校段階間の円滑な接続
- 7 不登校児童生徒への支援の充実
 - ・自己存在感や有用感を感じ、自分の居場所として安心して生活できる学級・学校づくりの推進
 - ・不登校対策研究委員会などによる支援体制の強化と家庭へのサポート、研究成果の啓発
- 8 学校と地域の連携・協働の推進
 - ・子どもが地域と主体的に関わり活動できるコミュニティ・スクールの優れた実践の周知・推進
 - ・ゼロカーボンシティを目指す取組やふるさと教育の推進など、子どもたちが苫小牧の魅力を再発見し、持続可能かつ発展的なまちづくりへの貢献意欲を高める活動の推進
- 9 学びのセーフティネットの構築
 - ・ヤングケアラーや児童虐待など、児童生徒が抱える多様な悩みの早期発見・早期対応の推進と家庭への経済支援や相談体制の強化に向けた関係機関との連携による包括的支援の整備
- 10 教育環境・学校施設・設備の充実
 - ・校舎の改築や老朽化対策、移動式クーラーの配備など学校施設の安全確保と学習環境の向上

方針3：全ての人々が学び続け活躍できる社会の実現

- 11 主体的に生涯教育を続け、郷土の発展を支えるひとづくり
- 12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり
- 13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

重点1 資質・能力の向上

- 主体的・対話的で深い学びの視点による教育活動の工夫改善
- 子どもたちが自立した学習者となるための各学校の組織的な取組及び学校間の連携強化

重点2 豊かな心の育成

- 教育活動全体を通じた組織的・計画的な道德教育の推進
- 全ての教育活動を通じて取り組むいじめ防止に向けた取組の促進

重点3 特別支援教育の充実

- 連続性のある多様な学びの場の整備と学校間等の連携の強化
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の情実

重点4 学校段階間の連携・接続の推進

- Tomakomai All-9の促進
- 幼稚園・認定こども園・保育所、高等学校との連携

重点5 不登校児童生徒への支援の充実

- 魅力ある学校作りと不登校児童生徒への支援の充実
- 学校、家庭、地域が連携・協働た不登校対策の推進

重点6 学校と地域の連携・協働の推進

- 家庭、地域の教育力を活かした学校づくり
- 社会との連携・協働による教育活動の構築

共通取組場面（見通す・決定する・協働する・振り返る）を全ての教科・全ての学級で！



拓進小学校 学校教育目標

◎希望の道を **たくましく進む**子の育成



◇めざす子ども

- ★つよい子・・・たくましく健康な心身をもつ子
- ★まなぶ子・・・正しさを求め、進んで学ぶ子
- ★やさしい子・・・思いやりの心もち、助け合う子

キャッチフレーズ「できた わかった がんばった」
「あいさつ あんぜん あとしまつ」

3 学校経営の重点 <拓進小学校が目指す学校>

(1) たくましく生きるための健康な体づくりを進める学校 (つよい子)

「基本的な生活習慣の定着・運動の日常化」

- 基本的な生活習慣の定着に向けた家庭と連携した取組の推進
- 「情報端末機器の約束」の指導と啓発
- 感染症対策の継続
- 運動環境の整備、体力づくりや体育授業の改善・充実

(2) 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる学校 (まなぶ子)

「授業改善の徹底」

- 主体的に学び、子どもが「できた」「分かった」を実感できる授業
- 焦点化、イメージ化、視覚化の推進、専科の指導による理科授業の質の向上
- ICTやタブレットの積極的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの推進
- 特別支援学級の考え方を活かした学級経営・学習指導

「家庭学習の指導」

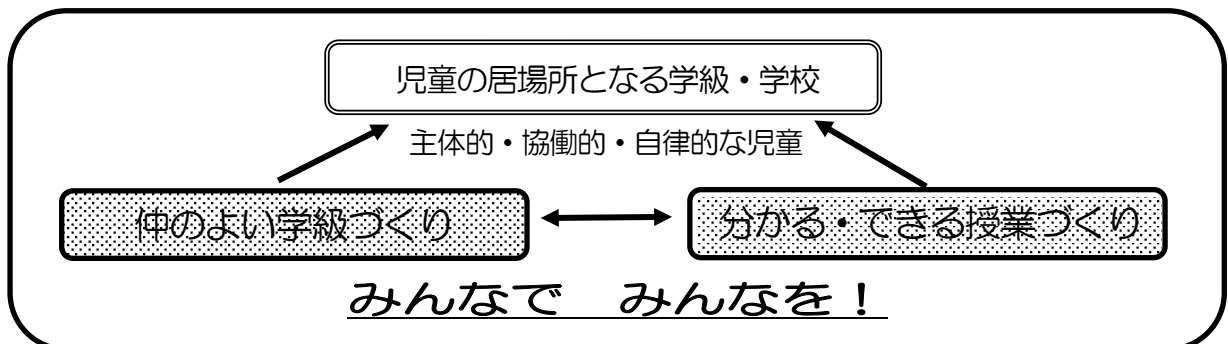
- 主体的な学習習慣の確立、家庭学習の質の向上に向けた指導と連携

(3) 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる学校 (やさしい子)

「不登校、いじめ問題への対応」

- 自己肯定感や自己有用感を育む居場所づくり～仲のよい学級・学校づくり
- 「生徒指導提要」やガイドブック・支援ツールを踏まえた取組の推進
- 未然防止・早期発見及び事案対処、長期化・固定化の防止、自立支援
- 児童会主体のいじめをなくそう集会、いじめを許さないルール作り
- 道徳教育の充実（授業改善・授業公開、「道徳の日」の設定）

4 今年度の重点



令和5年度の学校評価において、「学校が楽しいか」に対して86.1%の児童が肯定的な評価をし、「国語と算数の授業の内容は分かるか」に91.3%の児童が肯定的な評価をしたことは大きな成果である。職員一人一人が自分に与えられた役割に対して最善を尽くし、創意工夫しながら互いに助け合い補い合いながら協働的に取り組んできた結果である。

しかし、一方では依然として13.9%の児童が「学校へ行くのが楽しくない」と回答し、10%近くの児童が授業が分からないと回答している。このように思う児童を一人でも多く減らしていくことは、学校の重要な責務である。その解決には、子どもたちの自己有用感や自己肯定感、自分もやればできるという自己効力感を高めることが重要であり、今年度は「仲のよい学級づくり」と「分かる・できる授業づくり」を重点（柱）として一層改善を図っていききたい。

また、学校は学力向上や体力向上をはじめ、いじめ・不登校の問題、道徳教育や特別支援教育の充実、社会に開かれた教育課程やGIGAスクール構想の実現、コミュニティ・スクールの導入や働き方改革など、様々な課題を有しており、その解決には「チームとしての学校づくり」の推進が不可欠である。職員同士のつながり、学校と保護者・地域とのつながりを重視し、一体感ある教育活動の推進を図っていききたいと考え、「みんなで みんなを！」という合言葉を設定した。

5 合言葉の設定

チームアプローチを進めるために！

地域・家庭・学校の合言葉

みんなで みんなを！

6 今年度の重点取組事項

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

(1) 授業改善の徹底（分かる・できる授業づくり）

- 一体感ある指導の推進（単元・板書・ノート計画〈国語・算数〉の精査と改善、学習規律の徹底）
- 「主体的・対話的で深い学び」（視覚化・焦点化・イメージ化）の授業実践と評価・改善
- 校内研修の充実～共通取組事項と共通取組場面「見通す・決定する・協働する・振り返る」の徹底
- ICTやタブレットの活用による個別最適な学びと協働的な学びの推進
（調べ学習・eライブラリ・Teams・PADLETなどの利活用）〔教務部・研修部〕
- 基礎学力の定着に向けた取組（補充学習、学力テスト等）
- 授業における学校図書館活用の充実（司書教諭・学校図書館司書との連携）
- 学級閉鎖時や不登校児のタブレット活用による朝の会や遠隔授業の準備〔教務部〕
- 通常学級における支援や配慮を要する児童への手立ての確立（授業のユニバーサルデザイン化）、組織的な対応の推進
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による一人一人に応じた指導や支援の充実
- 支援が必要な児童の一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確化した授業実践
- インクルーシブ教育（交流及び共同学習、特別活動）の充実に向けた連携・協働
- 啓発学習等の積極的な公開

＜数値目標＞学習に関する児童のアンケートにおいて「授業内容がわかる」という回答を国語・算数90%以上にする。

(2) 家庭学習の指導の徹底

- 自主学習を中心とした毎日の学習習慣の確立
- 家庭学習の手引きの活用、調査による実態把握と改善指導、主体的な取組を促す家庭学習カードの活用及び保護者への啓発、授業と連動させた学習内容の指導、学習プリント等の常備
- 家庭学習の質の向上（活用力を身に付ける）

＜数値目標＞「学年×10分+10分」の家庭学習ができる児童の割合を、低学年90%以上、中・高学年85%以上にする。

II 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

(3) 不登校・いじめ問題への対応（仲のよい学級・学校づくり）

- 主体性や自己有用感を高め、互いを認め合う学級経営
《学級活動、学校行事、全校合唱、異学年交流等》
- 児童理解による信頼関係の構築（実態把握と情報共有）
- いじめや不登校への組織的な対応と関係機関等との連携
（学級⇒学年⇒生徒指導部・主幹教諭・教頭⇒いじめ防止対策委員会）
- 学習・生活規律の徹底（全職員による一体的・重点的な指導、納得感を高める指導）
- アンケート及び教育相談の充実
- 児童会が主体となった「いじめをなくそう集会」等の取組
- 道徳教育の充実（年3回の「道徳の日」の設定、道徳授業の改善、保護者・地域への授業公開）
- 挨拶運動の推進と相手や場に応じた言葉遣いの指導

＜数値目標＞児童アンケートで「学校は楽しい」という回答を95%以上にする。

III たくましく生きるための健康な体づくりを進める取組

(4) 基本的な生活習慣の確立・運動の日常化

- 基本的な生活習慣の定着に向けた家庭と連携した取組の推進
- 「情報端末使用時の約束」の指導と啓発（ゲーム・スマホ安全教室） [指導部・教務部]
- 感染症対策の継続 [保体部・主幹教諭]
- 危機回避能力を高める取組の推進
- 体力づくり、体育授業の充実「課題」「まとめ・ふり返し」の視覚化
- 体育館前廊下掲示板の体力づくりコーナーの充実
- 新体力テストの分析と目標達成外種目の強化

＜数値目標＞児童アンケートにおいて「体育の授業でたくさん運動している」という回答を95%以上にする。

IV 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

◎学校力の向上

- ★人材育成（ミドルリーダー・若手教員・ベテラン教員）
- ★教師力（資質・能力）、組織力の向上
- ★教育の質の向上を図る働き方改革の推進
- ★コアチームによる業務改善（業務内世の精選・重点化・定時退勤の推進等）
- ★危機管理への意識向上と体制確立

◎家庭・地域との連携

- ★ホームページ・さくら連絡網による学校の取組の発信、危機管理マニュアルの周知
- ★オープンスクールの実施
- ★「情報機器利用の約束」の活用及びゲーム・スマホ安全教室の開催等による基本的な生活習慣の確立

◎エリア3校での連携

- ★コミュニティ・スクールによる地域連携、人材活用
- ★学校教育力向上エリア会議
- ★国語・算数・外国語・道徳における実践交流
- ★特別支援教育における支援体制の充実
- ★生徒指導等の情報共有
- ★系統性・統一性ある取組（学習指導・道徳教育・特別支援教育）⇒教育課程の改善

学校のキャッチフレーズ

～「できた わかった がんばった」～

学校は、子どもたちが意欲的に学習に臨み、自己を成長させていく場である。そのためには、「わかった」「できた」「がんばった」という達成感を得る経験を積むことが重要である。児童一人一人が学校生活の中で楽しさを実感できる教育活動を展開し、一人一人の子どもに「できた」「わかった」「がんばった」という成就感・充実感を味わわせることができるような指導の充実を図る。

～「あいさつ あんぜん あとしまつ」～

- 挨拶をすること、返事をするという意味は、心を開いて相手に迫ること。
- 安全の意味は「危険がなく安心なこと」、安心の意味は「気にかかることがなく心が落ち着いていること」つまり、安全とは危険がなく心が落ち着いていること。
- 掃除（整理整頓）をすることの意味は5K（①きれいな場所にする ②心を磨く ③謙虚になれる ④感動の心をはぐくむ ⑤感謝の心が芽生える）で表され、気づく人になれること。
- ◇ 授業・特活・行事で自分の考えを持ち、考えを発表・表現できる
- ◇ 教科書（本）を持って読む、姿勢の保持（立腰、背筋は伸ばす）、丁寧な文字で書く（鉛筆持ち方）
- ◇ 相手を思いやる言動（児童間トラブル・いじめの未然防止・早期発見・早期対応）
- ◇ 元気にあいさつをする、きちんと返事をする、目を見て人の話を聞く、正しい言葉を遣う
- ◇ 時間を守る（登下校・朝の活動・授業・休み時間・給食・清掃、帰宅時刻、家庭学習、メディア）
- ◇ 廊下、階段は静かに右側を歩く（朝の玄関、校長室・職員室前廊下は来客や電話中）
- ◇ 整理整頓をしっかりとする（机の中・上・筆箱の中の整理、靴を揃える、いすを机の中に入れる…）

凡事徹底：当たり前前のごことを当たり前前に行う（行わせる）」

- 【1】きまり事（拓進スタンダード）を、確実に守る（守らせる）
——「規範」（当たり前前のごこと）を「確実」（当たり前前）に行う（行わせる）
きまり事を確実に守る。時間を守り、整理整頓などをきちんとする。
- 【2】任されたこと（係・当番）を、いつでもしっかりと行う（行わせる）
——「役割」（当たり前前のごこと）を「常時」（当たり前前）に行う（行わせる）
「校務」として任されていることを「常時」（いつでも）しっかりとする。
- 【3】職務（学習・生活）を、周りに惑わされずに遂行する（遂行させる）
——「義務」（当たり前前のごこと）を「専心」して（当たり前前）に行う（行わせる）
職務上の「義務」を、余計なことに煩わされずに「専心」して遂行する。

仕事ができる人とは「当たり前前ができる人」

1. 身だしなみが整っている
仕事ができる人は、仕事をお願いしたいと思える人。そもそも仕事とは他人からのお願いごと。お願いしたいと思える人は、TPOにあった身だしなみもきっちりとしている。
2. 時間や期限を守る
仕事ができる人は、どんな状況でも約束の時間をしっかりと守ることを徹底している。期限＝時間を守ることと同じ。仕事をする上では、常に時間への意識を強く持つことが重要。
3. レスポンスが早い
仕事ができる人は、提出物や依頼した仕事に対する反応が早い。レスポンスが早い人は、相手への配慮があるとみなされて、信頼感も増す。自分が依頼した立場だったら、レスポンスが早いのはとてもありがたい。
4. 整理整頓ができている
整理整頓ができる人は、思考の整理もできるとよく言われる。整理整頓ができていると「仕事の効率化」「忘れ物の防止」「ミスの防止」「集中力がUP」の効果がある。
5. 気遣いができる
自分のことだけでなく、周りに気を配れることは重要。周りに発信する言葉も、丁寧な言葉で話すことは大切。気遣いができる人は、自分が困ったときに周りからも助けられる。見ていないようで周りは見ている。
6. 優先順位を把握して業務を進めている
業務の優先順位を決めて仕事に取り掛かることは非常に重要。優先順位を把握して業務を進めている人は、時間を最も有効活用できているとも言える。